



奥谷 禮子

ザ・アール
会長



起業家精神



1982年、株式会社ザ・アール設立当初



1986年、経済同友会に女性初の会員として入会



1980年代、若手経営者たちと無名の会を立ち上げ

会社を起こして37年目に入る。31歳で会社を設立してあっという間に年月が過ぎた。ただ、面白いことがしたいと、今考えると若さというか、怖いもの知らずの起業であった。

今は女性の時代、活躍の時代と持てはやされているが、1980年代は女性が社会の中で、まともに働くことが白い目で見られるというか、まだ、まともな仕事なかった時代。これからは私たちのように何かがしたい、社会に貢献できる

ことがしたいという女性たちがいるはずだ。その人たちの能力をプロデュースすることができないか？ 女性の特有の感性、能力をもっともっと企業に認知してもらいたい。また、女性による社会変革ができるのではないかと必死になって、大企業の門を叩いた。

まず、男性社員に会うと「結婚しているか、どうか？」と身上調査から始まり、「どの銀行と取引しているか？」と信用調査に入る。できたばかりの会社が、大銀行と取引しているわけがなく、ビジネス社会で信用、信頼がいかに重要かを痛切に感じた。しかし、一つひとつ実績を作ることしかなかった。ガムシャラに経営にチャレンジした。

1986年、35歳で経済同友会に入会させていただいた。社会的信用、信頼が一段と上がったことに、われながら驚いた。女性初の同友会メンバーということで、日本全国から講演の依頼が殺到した。また、メディアからも注目された。女性経営者が珍しい時代であったのも追い風となった。

今、考えるといろいろな方々に巡り会えたこと、助けられたこと、私の人生にとり宝物となっている。いつか、創業したザ・アールを卒業して、これからまた、新しいことにチャレンジしようと「起業家精神」が衰えていない自分に気づく日々である。